

# 株式会社テクノマセマティカル

---

## 平成29年3月期<第17期> 決算説明会

■ Algorithm Specialist

**TMC**

平成29年5月24日

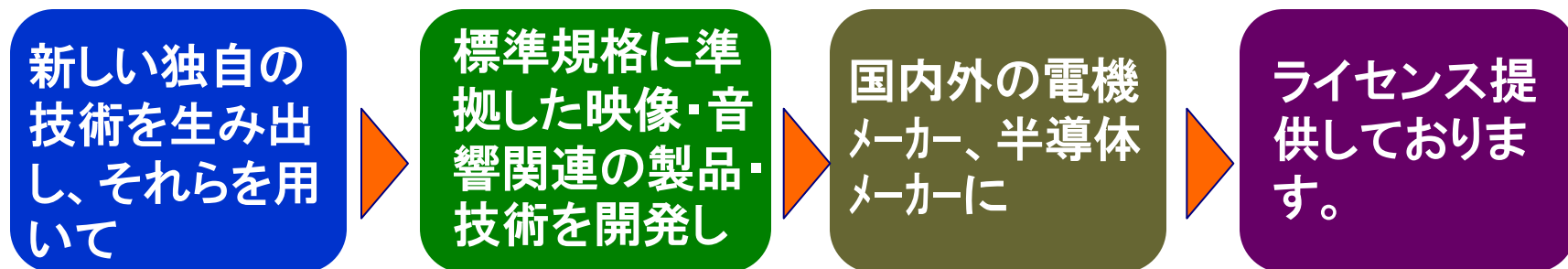
# Agenda

1. 事業概要
2. 今期決算と来期予想
3. 売上内訳
4. B/S、C/F
5. 来期(H30/3期)について
6. これからの事業展開について

本説明会および説明会資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づいて、当社が判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なることがありますことをご了承ください。

## 1-1 当社の基幹業務について



- ① 高圧縮率
- ② 高画質
- ③ 低消費電力
- ④ 低遅延

が実現できるデータ圧縮技術を開発、提供し続けます。

# 1-2 当社の基幹業務について

2000年6月設立当初から  
“アルゴリズム開発” をビジネスの基幹と位置付け



DMNAを圧縮／伸張処理に応用

ソフトウェアIP

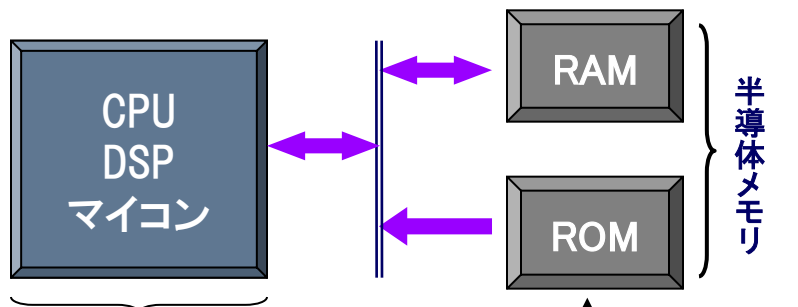
ハードウェアIP

ソリューション事業

単機能LSI/ボード

# 1-3 製品形態

## ソフトウェアIPライセンス



### マイクロプロセッサ

- ・ルネサスエレクトロニクス
- ・富士通
- ・Intel
- ・TI
- ・Freescale
- ・ARM
- ・MIPS
- ・SOCIONEXT

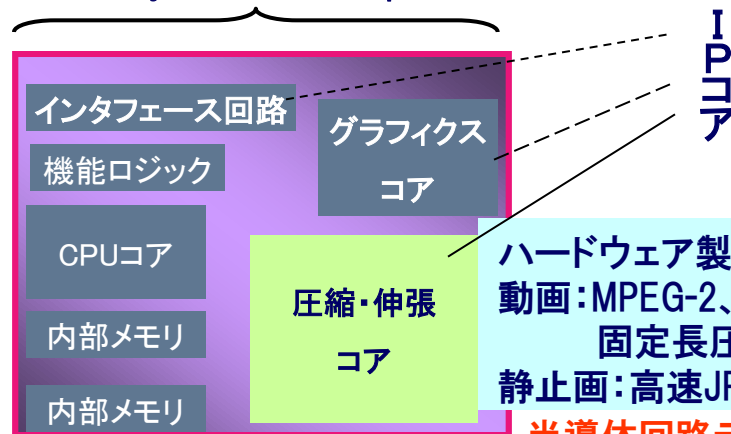
実行ファイル

ソフトウェア製品  
音響:MP3、AAC、AC3  
動画:MPEG-4、H.264/5  
静止画:JPEG等

- ・配信システム
- ・WiFi対応
- ・Video,Audio配信システム
- ・各種ソリューション

## ハードウェアIPライセンス

SoC (System on a Chip)

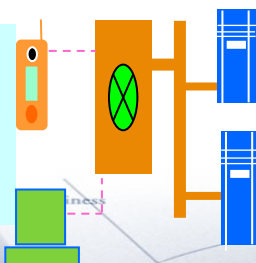


ハードウェア製品  
動画:MPEG-2、H.264/5  
固定長圧縮  
静止画:高速JPEG等

半導体回路データ

## ソリューション関連

INTERNET



## 単機能LSI

- ・ MPEG-2\_HD
- ・ 超解像スケーラ
- ・ H.264\_HD

半導体チップ

## 1-3-1 画像／映像

# コンパクトなFPGAに実装可能な H.265/HEVC コーデック

- ・H.265/HEVCは、ISO/IECで標準化された最新の動画圧縮・伸張規格です。
- ・H.265/HEVCの圧縮率はH.264の約2倍と高いため、4K(3840×2160画素)テレビ放送や8K(7680×4320画素)テレビ放送、および高精細映像配信や帯域が限られているモバイルでの映像サービスに適した規格として、期待がかかっています。
- ・一方で、信号処理が非常に複雑なため、コンパクト化が難しく、また、処理が重く、消費電力量も多くなる等が開発上の課題となります。

### <特徴>

H.265/HEVC方式に準拠したFull HD(1920×1080画素) 30p/60iフレーム/秒のコーデックを、当社独自のコンピュータアルゴリズム「DMNA」を用いて小型化し、コンパクトなFPGAに実装可能としつつ、高画質、高速化、低消費電力を実現しています。

### <対象FPGA例>

- ・ Arria10 GX570/660, SX570/660
- ・ Kintex KV060

# 1-3-2 画像／映像

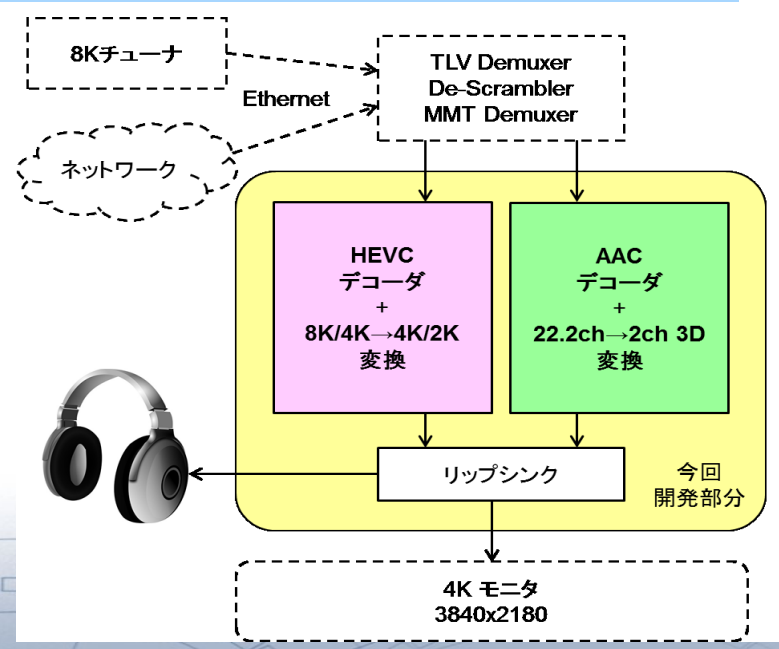
・8Kテレビ放送が汎用PCで視聴できる

## PCベース 8K・4Kテレビ放送ビューア

- ・総務省のロードマップによれば、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に「多くの視聴者が市販のテレビで8K・4K番組を楽しんでいる」ことを目標としています。
- ・8K・4Kコンテンツをテレビによらず、PCベースで視聴できる可搬性に優れたシステムを試作・開発中です。

### <特徴>

- ・ HEVC Main10 8KのコンテンツをリーズナブルなCPU負荷でデコード。
- ・ 8K/4Kソースを4K/2Kにダウンスケールする機能を実装。
- ・ 22.2ch音声をリーズナブルなCPU負荷でデコード。
- ・ 2ch3D(バイノーラル)変換により、臨場感を再現。





## 1-4 当社事業の特徴

### 1. 独自技術により、差別化された製品

「DMNA」を核とした独自アルゴリズム



### 2. 利益逡増型の収益構造

ライセンス・ロイヤルティモデルを主体とした収益力

### 3. 全世界に展開可能

国際標準規格準拠、日本発の映像 / 音響 / 音声製品

### 4. 事業領域拡大による収益力の向上

既存 / 新規の技術を応用したソリューション分野への展開



## 2-1 損益計算書推移

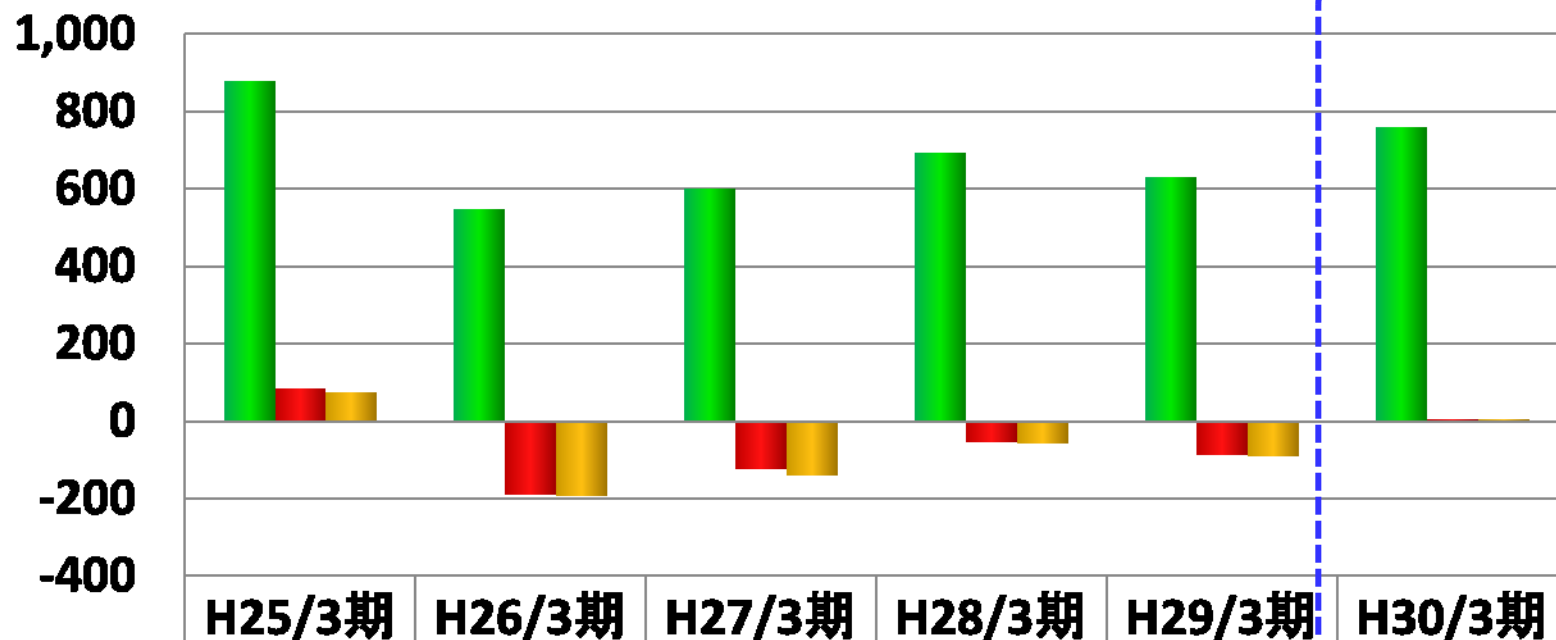
(単位:百万円、%)

	H28/3期(実績)			H29/3期(実績)			H30/3期(予想)		
	金額	構成比	前期比 増減額	金額	構成比	前期比 増減額	金額	構成比	前期比 増減額
売上高	691	100.0	91	629	100.0	△ 62	760	100.0	131
売上総利益	597	86.4	101	577	91.7	△ 20	673	88.5	96
販売管理費	653	94.5	18	668	106.2	15	670	88.1	2
営業利益	△ 55	△ 8.0	84	△ 90	△ 14.3	△ 35	3	0.3	93
経常利益	△ 55	△ 8.0	72	△ 90	△ 14.3	△ 35	4	0.5	94
当期純利益	△ 58	△ 8.4	85	△ 93	△ 14.8	△ 35	1	0.1	94

## 2-2 業績の推移

H29/3期 ◆ 売上高 IP事業の不振をソリューション事業で補えず9%の減収  
要 因 ◆ 損 益 減収と経費微増により赤字幅拡大

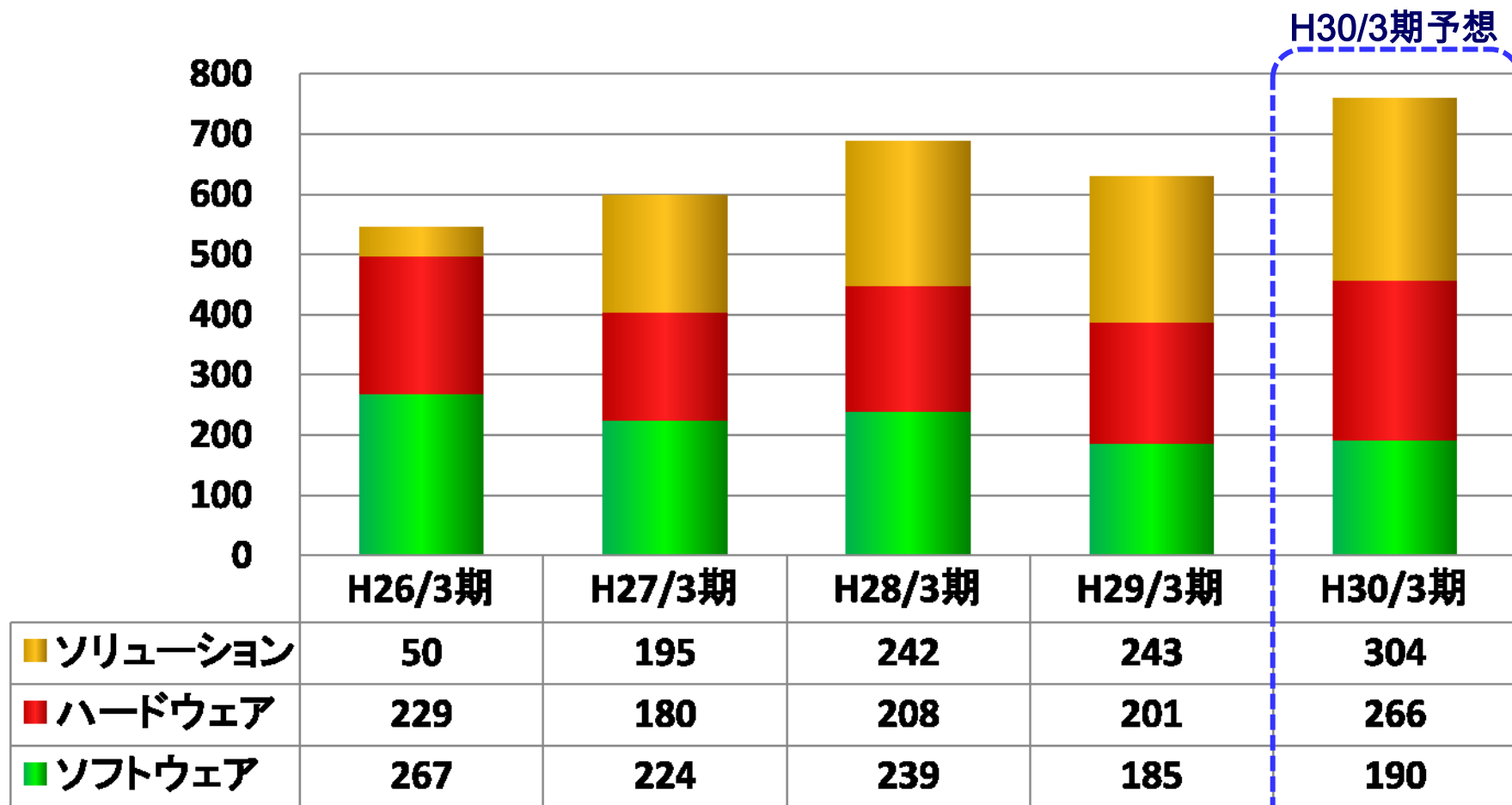
H30/3期予想



	H25/3期	H26/3期	H27/3期	H28/3期	H29/3期	H30/3期
■ 売上高	878	546	600	691	629	760
■ 経常利益	82	△ 192	△ 127	△ 55	△ 90	4
■ 当期純利益	74	△ 195	△ 143	△ 58	△ 93	1

## 3-1 売上の内訳(事業区分別)推移

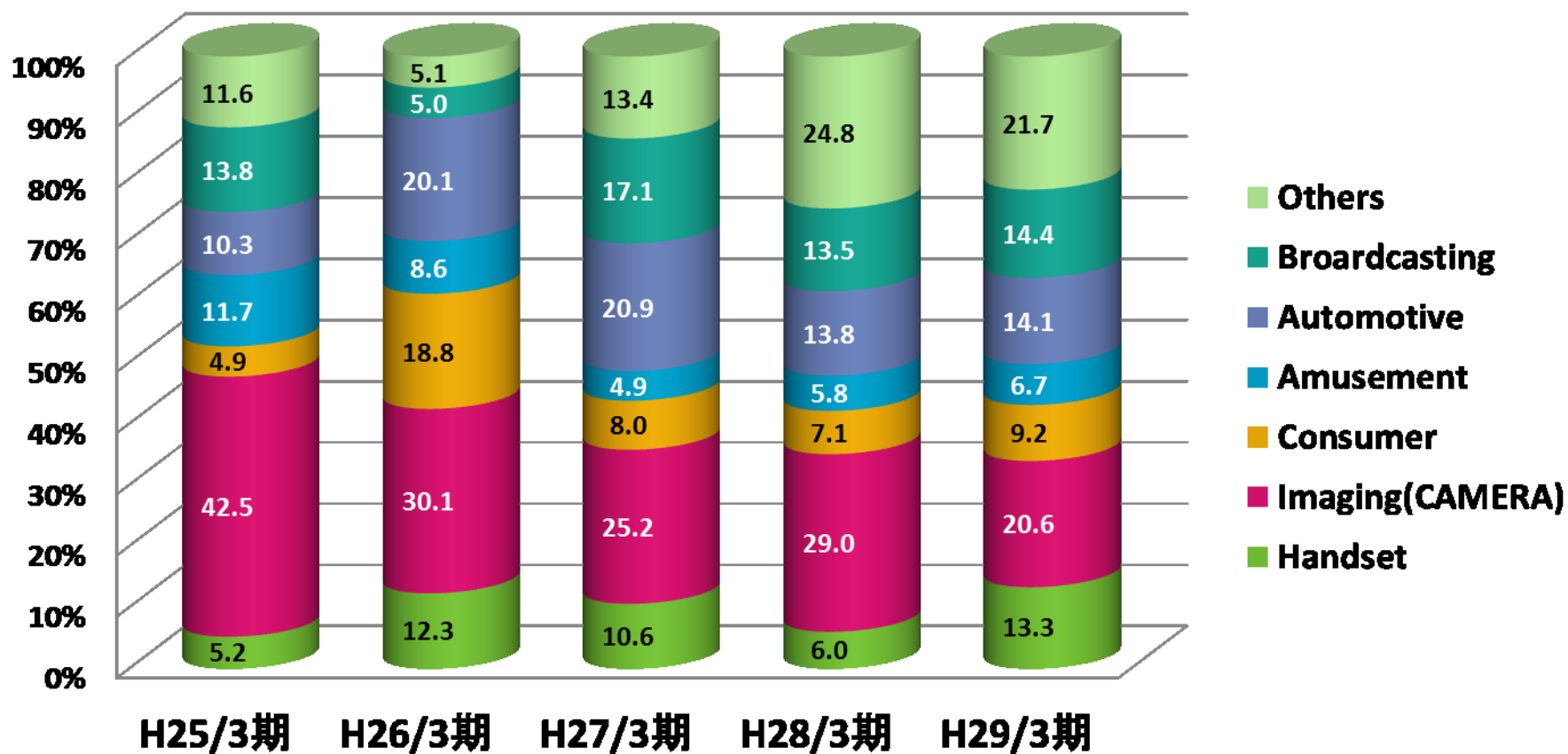
- H29/3期 ◆IP事業は前期比13%減・・・ハードウェアは3%減と微減なるもソフトウェアが22%の大幅減  
 ◆ソリューション事業は前期比横ばい・・・システム案件は堅調なるも小型版低遅延装置伸びず



## 3-2 売上の内訳(対象市場別)推移

H29/3期

- ◆ Broadcasting・Handset関連はウェイト低いながらも堅調推移
- ◆ ソリューション事業(低遅延装置、システム案件他)の伸び悩みやデジカメ関連の新規案件減少で、Others、Imagingがそれぞれ縮小



# 4-1 貸借対照表 (平成29年3月31日)

(単位:百万円)	前々期末 (H27/3期末)	前期末 (H28/3期末)	当期末 (H29/3期末)	構成比	対前期末比 増減
流動資産	<b>2,900</b>	<b>2,112</b>	<b>2,025</b>	<b>71.4%</b>	<b>△87</b>
固定資産	<b>67</b>	<b>814</b>	<b>809</b>	<b>28.5%</b>	<b>△5</b>
資産合計	<b>2,967</b>	<b>2,927</b>	<b>2,835</b>	<b>100.0%</b>	<b>△92</b>
流動負債	<b>92</b>	<b>102</b>	<b>98</b>	<b>3.4%</b>	<b>△3</b>
固定負債	<b>—</b>	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>0.1%</b>	<b>1</b>
純資産	<b>2,875</b>	<b>2,822</b>	<b>2,732</b>	<b>96.4%</b>	<b>△90</b>

## 4-2 キャッシュ・フロー計算書推移

(単位:百万円)	前々期 (H27/3期)	前期 (H28/3期)	当期 (H29/3期)	対前期比 増減
営業活動による キャッシュ・フロー	$\Delta$ 266	30	$\Delta$ 167	$\Delta$ 197
投資活動による キャッシュ・フロー	$\Delta$ 14	$\Delta$ 552	298	851
財務活動による キャッシュ・フロー	1	—	—	—
現金及び現金同等物 の増減額	$\Delta$ 270	$\Delta$ 522	130	653
現金及び現金同等物 の期首残高	1,212	942	420	$\Delta$ 522
現金及び現金同等物 の期末残高	942	420	550	130

## 5-1 H30/3期業績見通し

(単位:百万円)

	予 想	増減	増減率	H29/3期実績
売 上 高	<b>760</b>	<b>+130</b>	<b>+20.8%</b>	<b>629</b>
経 常 利 益	<b>4</b>	<b>+94</b>	—	<b>△90</b>
当 期 純 利 益	<b>1</b>	<b>+94</b>	—	<b>△93</b>

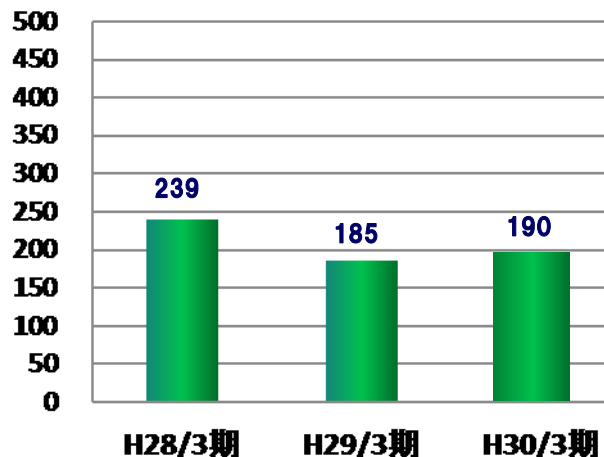
- ◆ ソフトウェアライセンス＝配信システム、携帯端末、車載ナビ向け中心に需要見込む
- ◆ ハードウェアライセンス＝デジカメ、ディスプレイ装置向け中心にH.265、4K/8K、固定長圧縮見込む
- ◆ ソリューション＝低遅延小型版伝送装置、WiFi SyncViewerの拡販、その他配信システム案件も見込む



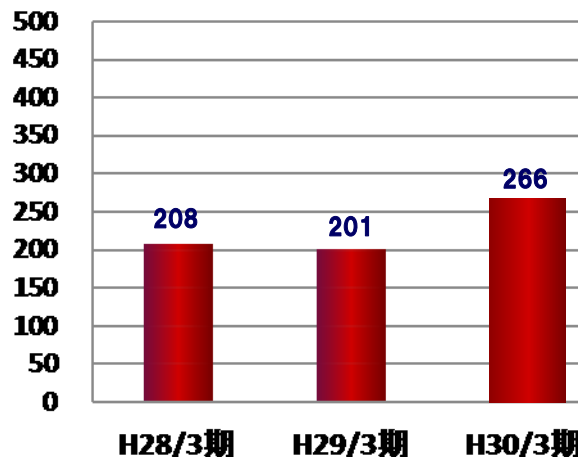
## 5-2 事業区分別売上予想

＜売上高＞（単位：百万円、H28/3期、H29/3期は実績、H30/3期は予想）

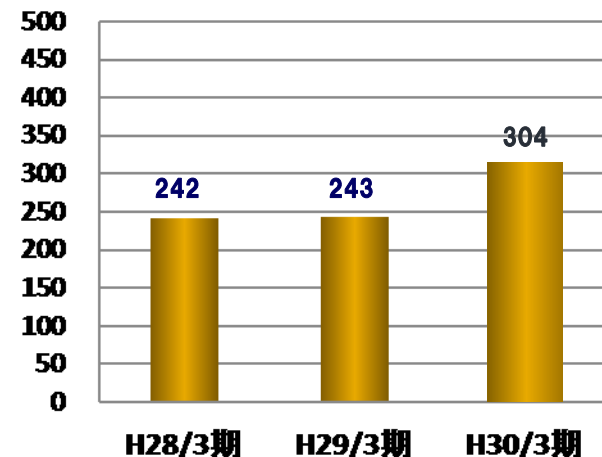
ソフトウェア事業



ハードウェア事業



ソリューション事業



予想基礎

- ・ **配信システム**関連でH.264/H.265等ビデオ関連は底堅い需要見込む
- ・ オーディオ、ボイス関連も**携帯端末、車載、音声認識**向けに伸び見込む

- ・ **デジカメ、放送機器**向け中心に**H.265、4K/8K**案件獲得目指す
- ・ **ディスプレイ装置**向け中心に固定長圧縮などが伸び復調を見込む

- ・ **低遅延小型版伝送装置**の国内外での拡販見込む
- ・ **WiFi SyncViewer**の拡販
- ・ **HEVCモジュールボード**や各種システム構築案件の獲得見込む

## 5-3 平成30年3月期における課題

### 1. 売上拡大

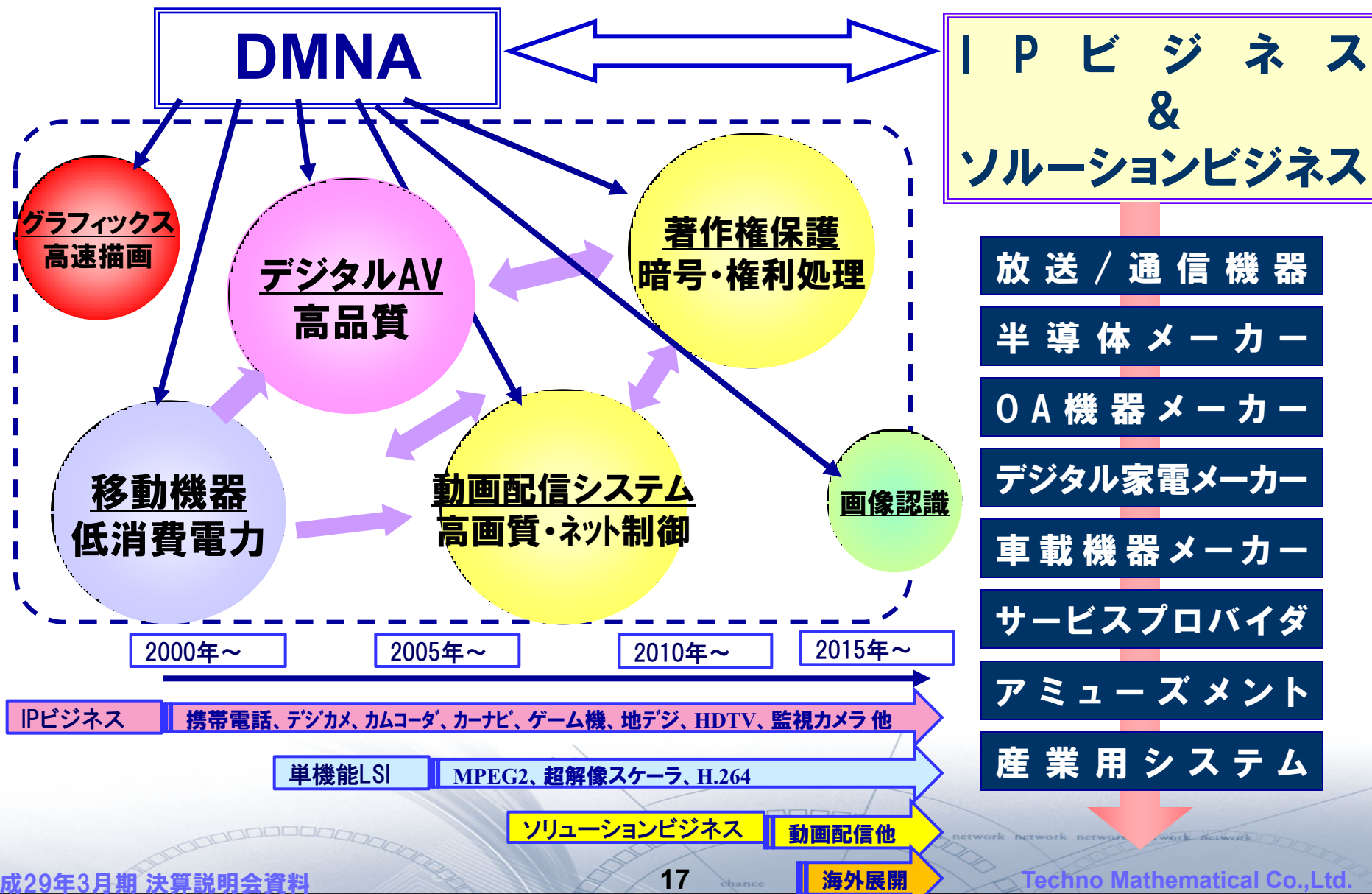
- (1) IPライセンス事業: 4K/8K/H.265/固定長圧縮/FPGA案件の獲得
- (2) ソリューション事業: ・低遅延小型版装置の国内外での拡販  
・WiFi SyncViewerの拡販  
・市場ニーズを先取りした新製品開発

### 2. 海外ビジネスの対応強化と案件数拡大

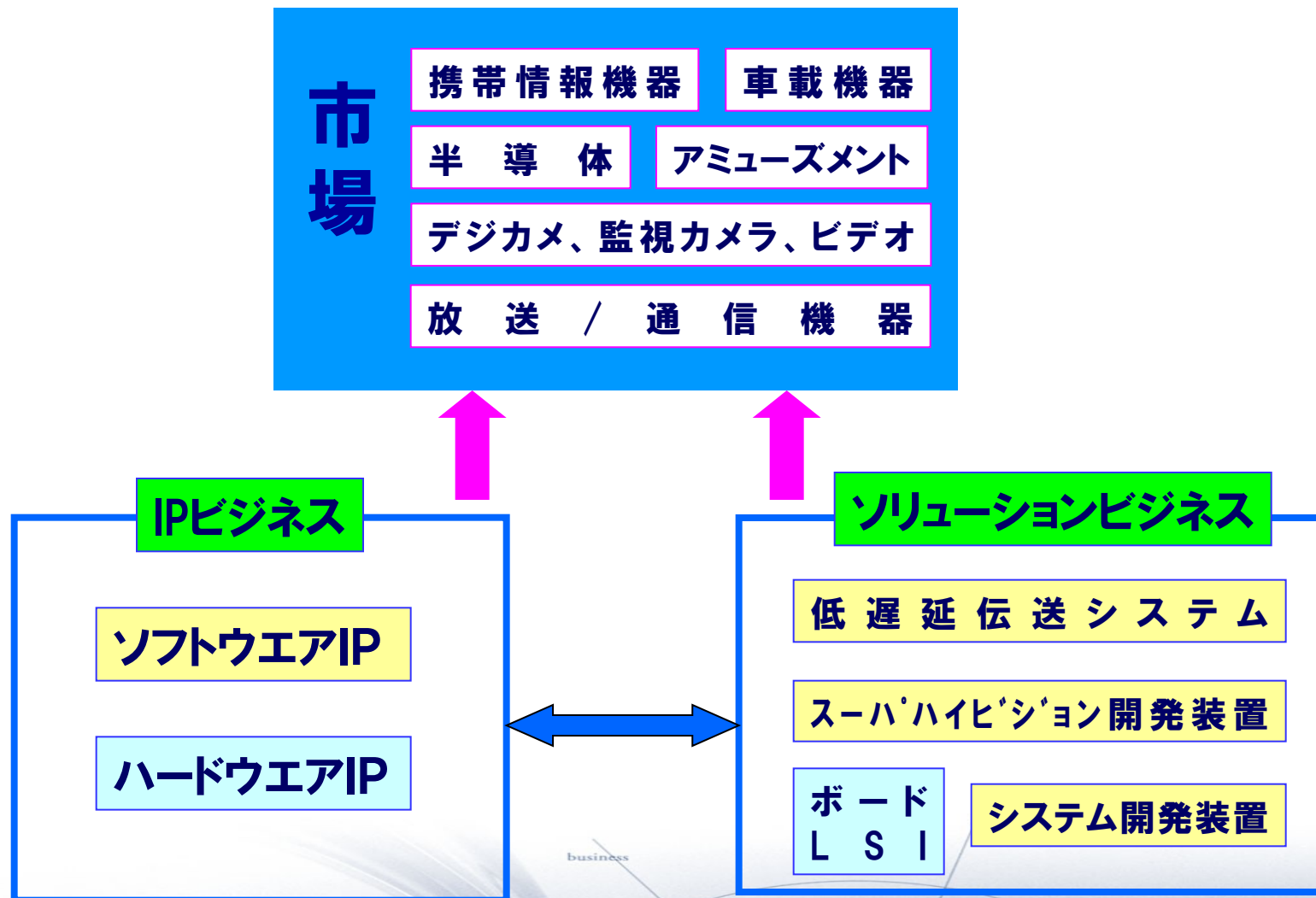
### 3. 全部門の意識改革による黒字体質の構築

### 4. 既存技術の高機能化・高性能化による差別化/優位性の維持・強化

# 6-1 ビジネス展開の推移



## 6-2 IPビジネスとソリューションビジネス



# アルゴリズムの分野で 世界のスタンダードになる！

ご清聴ありがとうございました。

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。ここに示した意見は、本資料作成日現在の当社の意見を示すのみです。当社は、本資料中の情報を合理的な範囲で更新するようにしていますが、法令上の理由などにより、これをできない場合があります。

**本資料および説明会内容についてのお問い合わせ先**

**株式会社テクノマセマティカル 経営企画部**

**TEL:03-3492-3633 E-mail:ir@tmath.co.jp**